

ブランド材「段戸S A N」の10年間の販売実績を振り返って

愛知森林管理事務所 一般職員
総括森林整備官

○^{ふな}舟^{まき}木^{たける}武^{さとし}
^{みやじ}宮路^{さとし}聡

要旨

ブランド材「段戸S A N」の10年間の販売実績を振り返ったところ、長級4mを中心に幅広い径級を販売しており、直径30cm以上では径級が大きくなるほど販売単価が上昇する傾向がみられました。2017年度から2021年度における販売単価を愛知県森林組合連合会ホルツ三河の市場と比較すると段戸S A Nの方が高く、購入者及び市場関係者に対して聞き取り調査を行ったところ、色味の良さ、枝打ちがされていることが高評価を得ていることが分かりました。

はじめに

愛知森林管理事務所管内にある段戸国有林は愛知県北設楽郡設楽町に位置し、当所随一の規模を誇る国有林です。ヒノキが主要な構成樹種であり、全体面積約5,296haの大部分が人工林となっています。

1893年から1902年にかけて大規模な皆伐が実施され、その際に植栽された林分は2022年度時点で林齢が100年を超えており貴重な森林資源となっています。このような林分から生産される高齢級の良材を若い林分から生産される間伐材と明確に区別するために、愛知森林管理事務所では2012年度からブランド材「段戸S A N」と表示し、ブランド化して販売を行っています。

2022年度でブランド化開始から10年が経過したところであり、当発表ではこれまでの取組と販売実績を振り返り、今後の施業、販売の一助とします。

1 段戸S A Nについて

段戸S A Nになるのは林齢が100年を超える段戸国有林の林分から生産される良材です。「S A N」の部分には山、産、愛称としての「さん」の3つの意味が込められています。マスコットキャラクターの「段戸さん」(図1)は手挽ろくろという道具を使いお椀やお盆などを作っていた職人である「木地師」がモチーフとなっており、これは明治時代に段戸地域で伐採が始まった際に木地師たちが原木利用の傍ら植林に従事していたことが由来となっています。

段戸S A Nの産地となる林齢100年以上の段戸国有林は過去に枝打ち、間伐などの手入れが行われてきたことで写真1の段戸国有林75い林小班のように1本1本の直径が大きい林分になっています。

段戸S A Nは株式会社東海木材相互市場と愛知県森林組合連合会の市場において販売してきました。販売の際は写真2のように土場で椴積みされた丸太の近くのぼりを掲げ、一目で段戸S A Nだと分かるように表示し、各丸太には図2のようなカードを木口に貼り付け、素材の植栽年、林齢、生産箇所を知ることができるようにしています。



図1 マスコット
キャラクター「段戸さん」



図2 産地表示カード



写真1 段戸国有林75い林小班



写真2 段戸S A N販売時の様子

2 段戸S A Nの生産実績

表1は2012年度から2021年度の間、林齢が100年を超える段戸国有林の林小班で行われた伐採の数量を表したものです。長伐期の複層林施業が中心であり、現在は伐採のほとんどが間伐です。施業実施計画別にみると、第4次計画にあたる2013年度から2017年度の期間のうち2014年度から2016年度は林齢が100年を超える林小班での伐採が行われておらず、段戸S A Nの生産はありませんでした。第5次計画では伐採量に多少の差はあるものの、毎年段戸S A Nの生産を行っています。年平均伐採面積は11.18haであり、段戸国有林の中でも林齢が100年を超える林小班は全体の1割以下であることから考えると、計画的に伐採が行われているといえます。

表1 2012年度から2021年度における林齢100年以上の段戸国有林での伐採数量

施業計画	収穫年度	林小班	林齢	伐採方法	面積(ha)	材積(m ³)
第3次	2012	72ろ	112	間伐	11.00	923
	2013	79い	100	間伐	7.14	531
第4次	2017	75は	122	間伐	2.89	305
		79い	104	間伐	14.35	1,571
	124ろ	108	皆伐	1.10	476	
第5次	2018	25い	101	間伐	6.08	1,031
	2019	21は	104	間伐	9.22	1,368
	2020	22は	103	間伐	10.72	1,683
		82ち	102	皆伐	2.37	836
	2021	21は	106	間伐	4.48	599
		68ち	129	間伐	8.94	1,562
			合計		78.29	10,885
			平均		11.18	1,555

3 段戸S A Nの販売実績

(1) 年度別販売数量

表2は2012年度から2021年度の年度別の段戸S A Nの販売数量を表示したものです。販売金額の愛知森林管理事務所の素材販売全体における割合は、少ない年でも2割弱、多い年で5割程度と大きなウエイトを占めていました。また、税込み金額を材積で割った1 m³あたりの単価は全体的に高く、特に2017年度と2021年度の2か年度は段戸国有林の中でも良質な木がとれる林班で施業が行われていたため、単価が高くなりました。

表2 2012年度から2021年度の段戸S A N販売実績

年度	材積(m ³)	税込金額(万円)	単価(円/m ³)
2012	718	1,747	24,318
2013	513	1,915	37,312
2017	1,493	6,643	44,501
2018	918	3,213	35,017
2019	1,335	3,735	27,969
2020	1,038	3,195	30,785
2021	1,410	6,122	43,430
合計	7,425	26,570	35,785

(2) 長級、径級別販売材積

図3は段戸S A Nの長級別販売材積割合を表示したもので、大部分を4 mが占めていましたが、一部で3 mや6 mの長級の生産も行っており、需要者の特殊寸法の素材に対するニーズにも対応していました。図4は段戸S A Nの径級別販売材積割合を表示したもので、高齢級材ということもあり直径13 c m以下の小丸太はほとんどなく、直径14 c mから28 c mの中丸太を中心に幅広い径級を販売しており、直径40 c m以上の大径材も全体の1割弱ほど販売していました。

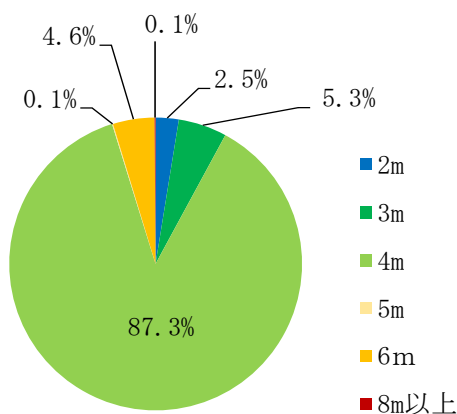


図3 段戸S A Nの長級別販売材積割合

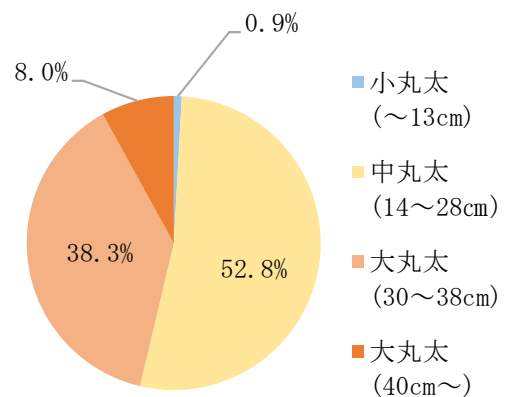


図4 段戸S A Nの径級別販売材積割合

(3) 販売単価

図5は長級4mの段戸S A Nの径級別平均販売単価を表示したものであり、径級30cmより下では単価に大きな変化はありませんが、30cm以上になると径級が大きくなるにつれ単価が上昇する傾向がみられるようになりました。特に直径50cm以上では販売の事例数こそ少ないものの、高値で取引されていました。

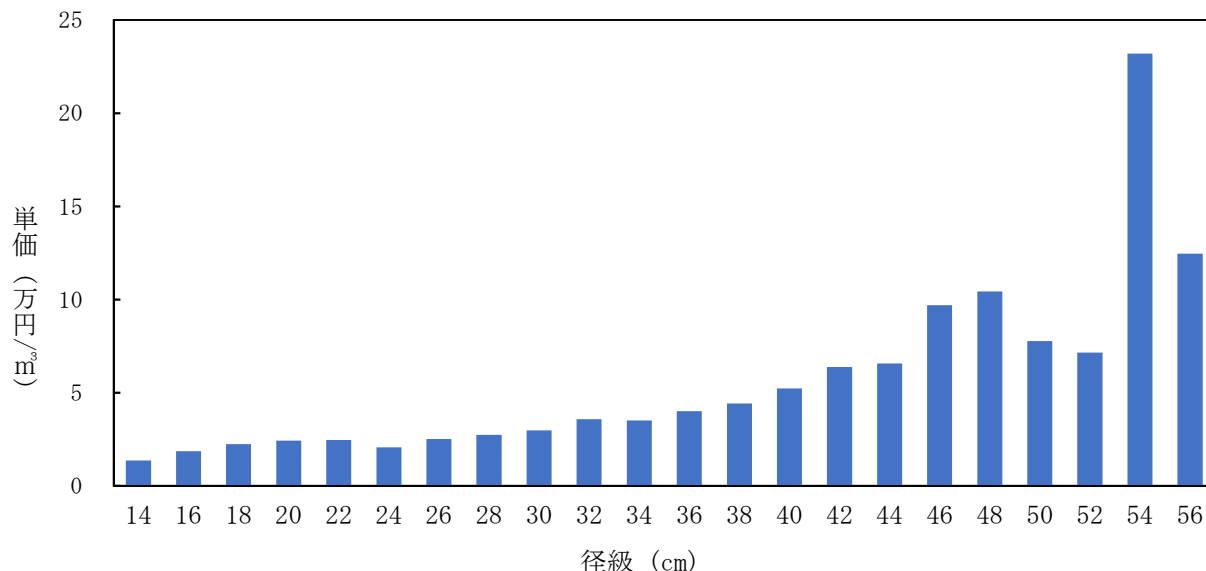


図5 長級4mの段戸S A Nの径級別平均販売単価

次に段戸S A Nの販売単価を同一の長級、径級の丸太と比較します。図6は2017年度から2021年度における直径36cm以上の4mヒノキ材の販売単価を表示したもので、比較対象として愛知県森林組合連合会ホルツ三河の市場での中値¹⁾を採用しました。2017年度から2018年度の一部を除く大部分の期間で段戸S A Nが上回っており、倍以上の差がつく期間もありました。34cm以下の径級についても同様の傾向で概ね上回っており、段戸S A Nが他の同一の長級、径級のヒノキ材と比較して高価であることが分かりました。

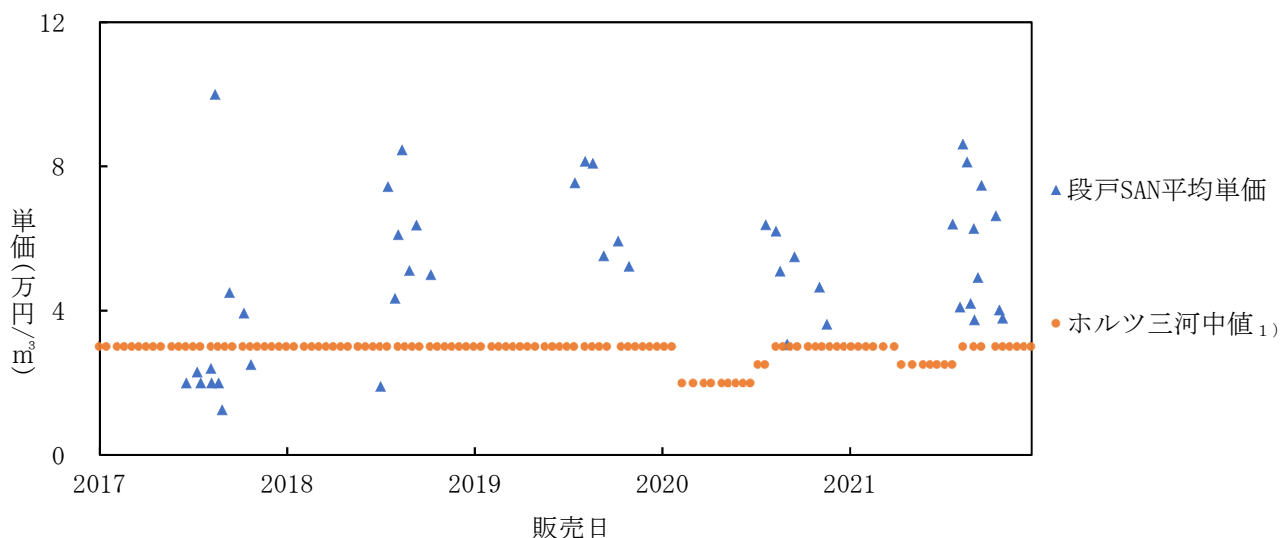


図6 2017年度から2021年度における直径36cm以上の4mヒノキ材の販売単価

4 聞き取り調査

段戸S A Nが他の丸太と比較して高値で取引されている理由を探るため、2022年12月に聞き取り調査を実施しました。

(1) 調査方法

調査は2019年度から2022年12月までの期間で長級4 m及び6 mの段戸S A Nの合計購入材積が上位であった購入者及び市場関係者に対して電話での聞き取りまたはメールの送信により ①使用用途 ②①の用途に使用する理由 ③段戸S A Nを他のヒノキ材と比較してどのような点が特徴であるか ④段戸S A Nに対する意見や要望 の4つを質問しました。15者に対して調査を依頼し、そのうち8者から回答を得ました。

(2) 調査結果

①使用用途については柱や土台、造作材、化粧材など多様で、大径材は神社仏閣用の柱などに使用しているという回答もみられました。②①の用途に使用する理由としては高齢級で径級が大きいということの他に、色味が白く木柄が良いという回答が多く、他の丸太に見られない特徴が好まれていました。

また、③段戸S A Nを他のヒノキ材と比較してどのような点が特徴であるか、という質問に対して最も多かった回答は枝打ち等の手入れがされているというもので、写真3のように節が止まっていることが好評であるようです。



写真3 段戸S A Nの木口

④段戸S A Nに対する意見や要望については大部分の回答者が計画的、継続的な生産を希望していました。手入れが十分にされた高齢級材というものは貴重であり、他の森林からの出材も多くないようで、限りある森林を大切に使い、今後も末永く段戸S A Nを生産してほしいようです。

おわりに

段戸S A Nは4 m材を中心に幅広い径級が販売されていましたが、聞き取り調査の結果色味が白く木柄が良いこと、枝打ちがされていることが好評であり、単に大きいだけではなく、質が高いことが段戸S A Nの特徴であることが分かりました。これが他のヒノキ材より高値で取引される要因の一つではないかと考えられます。

また、段戸S A Nの継続的な生産を望む声が多くみられましたが、十分に手入れされた林齢100年以上の林分は貴重で限りがあります。そのため、段戸S A Nの生産を考慮した適切な施業計画を立て、計画的な伐採を行うことで継続的な生産・供給を行うこと今後の課題となります。

参考文献

1) 三河材流通加工事業協同組合. “市況表バックナンバー”. HOLZ三河/三河材流通加工事業協同組合HP. <http://www.holz-mikawa.com/sikyohyou/backnumber/index.html>, (参照2022-12-20)